Awara News

あわらニュース vol.108

令和６年４月１日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。

桜の音楽隊♪

集まれ！おひなさま

ひな祭り会楽しかった～

芦原温泉にも新幹線が来た！

それぞれの春

新年度を迎えましたが、まずは能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。
被災地が一日も早く復旧し皆様が安心して日々の生活を送れるよう、切に願っております。

2024年度を迎えて

社会および個人活動のさまざまな制限が緩和される中、今年度も桜の開花とともに新しい年度がスタートしました。2024年度は医療界においてトリプル改定、第8次医療計画、及び医師の働き方改革などまさに変革が目白押しです。そして医療DXの推進及び2040年を見据えた全世代型社会保障制度の構築など、コロナ禍で停滞していたものがさらに加速していく年と思います。昨今それぞれの地域医療現場での課題がより個別化していくなかで、個々の医療機関の課題解決力と合わせて未来をつくる仕事がこれからより求められていくのでしょう。私たちあわら病院は、社会がどのように変わっていこうとも「多くの人の笑顔のために」という理念を揺らぐことなく掲げ続け、患者さんや社会から求められていることは何かを常に考えながら、より安全で良質な医療と介護を提供できるようこれからも努力してまいります所存です。今年一年、さらなるご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

院長
見附 保彦

感染症

内科医師　伊藤 和広

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の昨年末から見られた流行は収まりつつあります。現在、ウイルス変異株の主流はJN.1株であり、アメリカ疾病対策予防センター(CDC)はJN.1株について、以下のように発表しています。①JN.1株はより感染しやすいか、免疫回避能力に優れており、今後継続的に増加していく可能性が高い、②最新のワクチンは、他の変異株と同様にJN.1株に対する防御力を高めると期待される、③検査と治療はこれまでと変わらずJN.1株に対しても効果がある。一方で、本年4月より厚生労働省は支援策を終了し、治療薬の負担額が増大します。例えばゾコーバを5日間処方された場合、3割負担だと約1万5500円となります。さらに、入院医療費の補助もなくなり、ワクチンについても定期接種対象の方で最大で7000円程度になるようです。自己負担になることでワクチン接種を控える方もいるかもしれませんが、ワクチンに関係する学会などで作る団体・予防接種推進専門協議会は、重症化や感染した後の後遺症を抑えられるなどとして、ワクチン接種を推奨しており、今後もCOVID-19の流行が続くと予想されることから、やはりワクチン接種を含めた感染対策の継続が望ましいと考えられます。

地域総合診療在宅移行支援

総合診療科科長　鈴木 友輔

団塊の世代が後期高齢者となる2025年がいよいよ近づいてきております。この2025年問題に対応すべく当院では2013年から「Hospital in the home, Home in the hospital」の概念のもと地域包括ケアシステムの枠組みの中で当院の役割を果たせるように体制づくりを進めてきました。訪問診療や訪問看護の実施、在宅療養支援病院取得や地域包括ケア病床の設置、訪問看護ステーション「アイリス」の開設などを行い、その体制の中で坂井地区在宅システム情報共有システムを積極的に利用して、外来・入院・在宅、そして看取りまでのあらゆる段階での医療を継続できるようにしています。

また、制度や体制の整備だけでなくその中で十分に能力を発揮できるような人材育成のための教育活動にも力を入れており、学生や研修医・専攻医だけでなく看護師の研修指導体制も整備しております。2025年問題に直面している社会状況の中で在宅療養を希望する患者さんや家族に貢献できるように、引き続き病院の体制整備と実際に医療を行う人材育成の両面に力を注いでいきます。

重心医療とPost-NICU

小児科医長　大坂 陽子

今回は「Post-NICU」について。Post-NICUのpostを訳すと「後の、後方の」となり、Post-NICUとはNICU(新生児集中治療室)を卒業したお子さんを支援する医療施設のことです。人間は生後すぐ独り立ちできる生きものではなく、家族や社会全体で成長発達を見守りますが、その中にNICUを出た後も引き続き治療やケアが必須でおうちに帰るのはしんどいな、という重症心身障がいの患者さんがいらっしゃいます。そこで当院のような医療施設がPost-NICUといった役割を担い、高次医療機関と在宅のかけはしとして患者さんとご家族を長期に支援していきます。

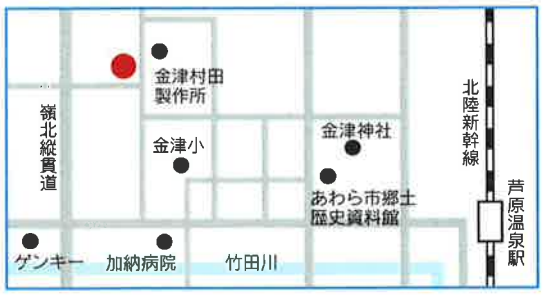
支援内容は、疾患治療の継続や全身状態管理の医療に加え、急性期に気軽に出来なかった入浴などの生活支援、摂食機能訓練などのリハビリ、発達を促すかかわりや遊び、行事参加などの療育活動、支援学校での学習などで、健康状態や環境が安定すれば在宅に移行します。

しかしNICUからPost-NICUへ、さらに言えば急性期病院から後方施設への移行時は課題が多く、後方施設が患者さんの専門性の高い疾患に対応可能か個々の例で確認する必要があり、当院も受け入れについてはカンファレンスを行い判断します。また、在宅の方にも短期入所などを通した支援に努めています。

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

障害者支援施設　金津サンホーム



当施設には、50名の障害のある方が入所生活をしておられ、日中は、通所の方を含め70名の様々な障害をお持ちの方が利用される施設です。30年前より旧金津地区にて地域に貢献できる障害者のための施設として設立しました。障害をお持ちの方やそのご家族の希望が実現できること、その方やご家族が安心して生活できるよう支援することを理念としています。ご本人を支えるご家族も様々な問題を抱えており、相談員を中心にその課題にも寄り添い、共に考え課題解決に向き合っています。ご本人がどのように生活したいか、その思いを受け止め、一緒に課題を解決できるよう日々悩みながらサポートしているところです。

金津サンホームには、とても前向きで頼もしい外国籍の特定技能職員が12名おります。日本人職員と一緒に試行錯誤しながら日本語の勉強も含め、利用者により良いケアができるよう日々頑張ってくれています。

病気や障害等での受診や退院時カンファレンスなど、病院との連携は必要不可欠です。あわら病院には、緊急時を含め、日頃より大変お世話になっております。今後も、共に福祉と医療の掲げる課題に取り組んでいけるよう、連携の程よろしくお願い申し上げます。

障害者支援施設　金津サンホーム
〒919-0633　あわら市花乃杜3丁目22-12　TEL.0776-73-5033　FAX.0776-73-5088

地域連携室便り

退院支援看護師　奥野 美貴

地域医療連携室では退院支援看護師が在籍しており、退院支援業務に携わっています。介護保険や障害福祉サービスの利用も含め、高齢者や神経難病の方が支援の対象であり、地域で安心して暮らせる社会を実現するためどのような生活の場を望んでいるのか、またそのためにはどんな準備が必要かについて、患者さん・ご家族と共に一緒に考えています。

障害福祉サービスを利用するためにはまずは市への申請が必要です。次に支給申請を行うと現在の生活や障害の状況についての認定調査が行われます。その調査をもとに市で審査・判定が行われどんなサービスが必要な状態か決定されます。介護保険のケアマネージャーのように、障害福祉サービスの分野では相談支援専門員が地域では要になってサービス調整を行ってくれます。日常生活をサポートするための用具を給付する「日常生活用具の給付」が必要になってくる方もいます。当院でも退院支援看護師が、給付対象者になるのか問い合わせたり、具体的な用具について福祉用具業者と相談するなど、必要なことを提案し患者さん・ご家族と共に日常生活用具を決定してもらっています。あわら病院が目指す「多くの人の笑顔のために」退院支援看護師もその人らしく、安全に安定した生活が送れるように退院支援を実践していきたいと思っております。

外来担当医表

（令和6年4月1日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	鈴木 友輔(第1･2･3･5) 見附 保彦(第4)	海野 優矢
	小児科	川満 徹 *	川満 徹 *	川満 徹 *	湯浅 光織(第1･3･5)* 福岡 諒(第2･4) *	川満 徹 *
専門	リウマチ		津谷 寛		津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正 *		大槻 希美(第2･4)
	生活習慣病			鈴木 友輔(第2･4)		伊藤 和広
	老年					桒田 敦(第1･3･5)
	神経			浅野 礼(第1･3･5)		
	循環器			見附 保彦	見附 保彦	
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	伊與部 貴大				
	眼科				吉岡 達也 *	
	皮膚科		若原 真美 *			
	地域ケア	鈴木 友輔 *				
	禁煙外来	見附 保彦				

● 受付時間（午前診療）8:40～11:30　● 黄色枠は予約制　● *印は午後診察　● 休診日／土･日･祝日･年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日の13:00～15:00（受付時間14:30まで）です。

※神経内科の診察は、第1･3･5水曜日（受付時間8:40～11:30）です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。

栄養サポートチーム便り

栄養管理室長　父川 拓朗

良い食習慣は体重管理、病気のリスクを減らし、今だけでなく未来まで生活の質を向上させることができます。「私は3日坊主だから」と思わず、以下のステップで良い習慣を獲得しましょう。

①「願望」を明確にする：体重を3kg減らしたい。
②「行動の選択肢」を挙げる：毎日30分歩く、おやつのカロリーを100kcalにする。
③「自分にあった行動」を選ぶ：運動をする時間がないからおやつを減らそう。
④「小さく」始める：いきなり100kcalは辛いからまずは今より50kcal減らそう。
⑤「効果的なきっかけ」を見つける：買い物に行ったらカロリーの少ないものを選ぶ。

1日は24時間、これは皆さん平等です。良い習慣を増やせば、良くない習慣をする時間は取れません。皆さんは将来病院のベッドで過ごしたいですか？いつでも好きな時に旅行に行きたいですか？

骨密度検査を受けてみてはいかがでしょうか

診療放射線技師長　篠本 弘

骨粗しょう症は骨の密度が低下する病気で、腰痛や股関節の骨折などにより歩行困難や要介護となってしまう高齢者も少なくありません。骨粗しょう症による骨折を防ぐには、早期発見と対処が大切です。当院では骨の量の目安となる「骨密度」を調べる検査があります。かかとの骨に超音波を当て、超音波の伝わる速度から骨密度を測定する方法を実施しています。かかとは代謝速度の速い海綿骨の割合が90％以上をしめ、骨量の減少が現れやすい場所です。超音波を用いる方法は放射線の被ばくがなく、検査時間も1分ほどで、痛みはまったくありません。

骨密度は20歳代がピークで、その後、40代半ばまではほぼ一定を維持し、特に女性の場合50歳前後から低下します。人生80歳の時代にあって高齢者とはいえない40代のうちから意識し、骨密度検査を定期的に受けてみてはいかがでしょうか。

独立行政法人
国立病院機構 あわら病院
福井県あわら市北潟238-1
TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249
〈地域医療連携室〉FAX.0776-79-1261
URL http://www.awara-hosp.jp/

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（約5km）　乗合タクシー［事前に登録が必要です］
JR北陸本線「芦原温泉」駅より（約10km）　乗合タクシー［事前に登録が必要です］

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。
乗合タクシー（デマンド交通）は、お電話一本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所　生活環境課　生活グループ　0776-73-8017